

ルツ記 3

大麦と小麦の刈り入れが終わるのにはおよそ7週間かかります。この間ルツは毎日落ち穂を拾いにボアズの畑に行きました。毎日一生懸命畑で働き、そしてボアズと会うこともきっと何度もあったことでしょう。ナオミはその様子を観察していたに違いありません。ベツレヘムに帰った頃のナオミは、私をナオミと呼ばず、マラと呼んでください。主が私を卑しくし、全能者が私を辛い目にあわせられたというのに、と苦しみに悶え、失った者を悼み、喪に服し、その心は悲しみでおおわれていました。ナオミは苦しみを、嘆くことを避けませんでした。大切なものを失った悲しみから逃げずに、彼女は嘆きの時、悼む時を過ごしたのです。ある意味ナオミはよく苦しんだ、と言えるのではないかと思います。

私たちがカンボジアでの働きを終えた2007年、最後に参加した OMF カンボジアチームの年次大会でアジスフェルナンド先生がメッセージの中で、**discipline of mourning** ということを言われました。初めて聞く言葉でした。「身を律して喪に服する」あるいは「悼み悲しむための修練」とでも訳したらよいでしょうか。私たちは何かを失った時、身を戒めてしっかり喪に服することが大切だ、とアジス先生は言われました。神の前に、その悲しみを打ち明け、嘆くこと。焦って慌てて立ち上がろうとせず、悼み悲しむ時をきちんと持つ、黙して嘆きの時を過ごす、それでこそ、時が来て、立ち上がる時が備えられる、と。

ナオミは夫と息子の死を悼み、深く嘆き悲しむ時を過ごしていました。その苦しみを与えた神様の御前にとどまり続けて。

しかし、モアブの嫁、ルツからたくさんの食べ物とそしてボアズの名前を聞いた日、ナオミの心には希望の火が灯りました。自分を苦しめた全能者を、御恵みを惜しまない主、と呼び改めたナオミの心に、毎日ルツとボアズを通して食べ物と共に、主の恵みが届けられました。悲しみに沈み、固くされていたナオミの心は徐々に溶かされ、温められ、上を見上げるようになっていきました。その心は他の人のために働くようにされていきました。ナオミはルツの将来を案じるようになっていました。最初の日から特別な優しさと配慮を示し、ずっとその畑で落ち穂を拾うようにしてくれたボアズはナオミにとって買い戻しの権利のある親戚です。この数週間、ナオミはルツとボアズの様子を観察しながら、彼こそルツをめとり、エリメレクの土地を買い戻してくれる方に違いない、と確信するようになっていきました。そしてルツにこのような指示を与えます。

「娘よ。あなたが幸せになるために、身の落ち着きどころを探してあげなければなりません。あなたが一緒にいた若い女たちの主人ボアズは、私たちの親戚ではありませんか。ちょうど今夜、あの方は打ち場で大麦をふるい分けようとしています。あなたはからだを洗って油を塗り、晴れ着をまとって打ち場に行きなさい。けれども、あの方が食べたり飲んだりし終わるまでは、気づかれなないようにしなさい。あの方が寝るとき、その場所を見届け、後で入って行ってその足もとをまくり、そこで寝なさい。あの方はあなたがすべきことを教えてくれるでしょう。」

大麦と小麦の刈り入れが終わると、今度はもみ殻をふるい分ける作業が続きます。麦ともみ殻をふるい分けるには強い風が必要で、ちょうどその時期ボアズと若い者たちは畑でその作業をしており、今晚ボアズは穀物の見張りのため打

ち場で寝ることをナオミは知っていました。ナオミはルツの身の落ち着き場所をさがしてあげねばならない、と言い、大麦をふるい分けているボアズのもとに行くように詳細な指示を与えます。「からだを洗って油を塗り、晴れ着をまとめて打ち場に下っていきなさい。」これはどういう意味でしょうか？

2サムエル12:20には子供のために断食して祈っていたダビデが、子供の死んだことを聞き、起き上がり、からだを洗って身に油を塗り、衣を着かえて主の家に入り礼拝したと書かれています。これは喪に服する期間が終わったことを表す行為です。ナオミもルツも死んだ者を悼み、喪服を着ていました。ナオミのルツへの言葉、それは、ナオミがルツの喪に服する期間は終わった、と宣言し、からだを洗い、油を塗り、晴れ着をまとめて新しい歩みをするよう促している、と言えるでしょう。あんなに辛さと悲しみに沈み、苦くなってしまっていたナオミは、今ルツの喪の期間を終わらせ、新しい歩みに送り出す者に変えられているのです。ナオミはルツに喪服を脱ぎ捨て、もはや嘆き悲しむ未亡人としてではなく、新しい歩みに備えられた、結婚するにふさわしい女性としてボアズのもとに行くように促しているのです。

それにしても、ナオミの計画は大胆です。夜にこっそりボアズの寝床に忍び込み、その足元に寝なさい、とは。何が起こってもおかしくない状況です。これは決して一般的に当てはめられる求婚の方法ではありません。これはナオミが独自に考えた計画です。その計画の成功はボアズの誠実さにかかっていました。ボアズが決してルツの弱みにつけこんで手籠めにしたりしないこと、ボアズがきっとルツを受け入れてくれること、そしてボアズならこの大胆な計画に秘められたナオミの心情とメッセージをくみ取り、ルツを大事に守り、また賢

く対処し、決してルツやナオミの評判を傷つけるようなことはしないとナオミは確信しています。そして「あの方はあなたがすべきことを教えてくれるでしょう」と全幅の信頼をボアズに寄せ、ルツの身を彼に預けるのでした。そしてそれは、ボアズが逃げ切れないほどの捨て身の求婚でした！そして驚くべきことに、ルツもそのナオミの大胆な計画に素直に従うのでした。

ルツは打ち場に下っていき、姑が命じたことをすべて行いました。大麦をふるい分け、食べたり飲んだりして気分がよくなったボアズは、麦が積み重ねてある傍らで横になって寝ます。ルツはこっそり行ってボアズの足もとをまくり、そこに横になりました。夜中になってボアズは足もとに人がいるのに気がついて驚いて起き上がります。「あなたは誰だ」「私はあなたのはしためルツです。あなたの覆いを、あなたのはしための上に広げてください。あなたは買い戻しのある親戚です。」

ボアズはルツの姑エリメレクの親戚と書かれており、あきらかに年配の男性でした。ボアズはルツのことを「娘さん」と呼んでいます。彼がその年まで独り身であったのは、もしかしたら彼が女性に関しては内気で控えめだったのかも知れません。ルツのこの行為はボアズにとってまったく予想しない不意打ちであり、大きな驚きでありましたが、それ以上に、大きな感動を与えるものでした。彼はこう言っています。「娘さん、主があなたを祝福されるように。あなたが示した、今回の誠実さは、先の誠実さにまさっています。あなたは、貧しい者でも富んだ者でも、若い男の後を追いかけてませんでした。」

ここでボアズが言う先の誠実とはルツがナオミを見捨てることなく、一緒にベツレヘムに来て、落ち穂拾いをしてナオミの必要を満たしたことでしょう。こ

れに加えて今ルツは、さらに家族の関係を重んずる証をしました。ナオミの家族に対して責任ある態度を示して、結婚相手として買い戻しの権利のある親戚の自分により頼んでくれた。この誠実さ、という言葉は1：8で恵みと訳されているヘセドという言葉で、真実、愛とも訳される言葉です。ルツのこの行動はボアズにとって思いやりがあると同時にルツの堅実さ、誠実さを表すものでした。ボアズの言葉から、彼は年寄りの自分を若く魅力的なルツは結婚相手として望まないに違いない、と思っていたような節があります。ボアズの目には、ルツは望みさえすれば逞しく魅力的な若い男、あるいは金持ちの若い男と結婚することもできるような女性でした。しかし、ルツはそのような若い男性との結婚を求めることをせず、ナオミの家族を大切にし、買い戻しの権利のある自分のもとに来てくれた。しかもこんなに勇敢な方法で！「あなたの覆いを、あなたのはしための上に広げてください」というルツの言葉を聞いた時、ボアズは自分がルツに言った言葉を思い出したことでしょう。「あなたがその翼の下に身を避けようとして来たイスラエルの神、主から豊かな報いがあるように。」それはルツの心に語りかける慰めの言葉であり、同時にルツに代わってイスラエルの神への彼女の信頼を言葉にしたものでした。その同じ言葉を用いて、ルツは今ボアズに身を避けているのです。自分が言った言葉をボアズは翻すわけにはいきません。いや、むしろ彼自身が、そのイスラエルの神に代わって、ルツの身を覆うように乞われているのです。ボアズの心は打たれました。ルツは若い男ではなく、自分を選び、身を預けてきてくれた。ルツばかりでなく、ナオミもまた、自分にこんなに大きな信頼を寄せてくれている。「娘さん、もう恐れる必要はありません。あなたが言うことはすべてしてあげましょう。この町の人々はみな、あなたがしっかりした女であることを知っています。」ボアズはルツの願いをかなえることを約束します。

ボアズはしかし、買い戻しの権利のある親戚で、自分よりもっと近い買い戻しのある親戚があることを告げます。この買い戻し、というのはルツ記の隠れテーマの一つですが、その背景を少し説明したいと思います。

神様がイスラエルに約束の地をお与えになった時、その土地はそれぞれの相続地として代々受け継がれていくべきものでした。土地は究極的には人にではなく、神に属するからです。イスラエル人が貧しくなり、土地を売らねばならなくなった場合、その近親の者が必ずそれを買い戻し、その土地がその家族のものとしてとどまるよう定めた律法があったのです。ベツレヘムに戻ったナオミにとって、エリメレクの土地の買い戻しは、イスラエルにおけるエリメレクとナオミの家系の存続にとって、なくてはならないものでした。ナオミはルツの落ち着き場所と、そしてエリメレクの土地の買い戻し、という決定的な役割をボアズに預けたのでした。そして、そのナオミの委託を正確に理解したボアズは、そのためにクリアーしないといけない課題があることを知っていました。

「ところで、確かに私は買い戻しの権利のある親類ですが、私よりもっと近い、買い戻しの権利のある親戚がいます。今晚はここで過ごしなさい。朝になって、もしその人があなたに親類の役目を果たすなら、それでよいでしょう。その人に親類の役目を果たしてもらいましょう。もし、その人が親類の役目を果たすことを望まないなら、私があなただを買い戻します。主は生きておられます。さあ、朝までお休みなさい。」ナオミの言ったとおりです。ボアズはなさねばならないことをわきまえ、ルツにどうしたらよいか教えています。すべてを自分に任せ、あなたはお休みなさい、と。ルツは朝まで彼の足もとで寝た、

とありますが、さて、二人は眠れたでしょうか。きっとちつとも眠ることはできなかつたのではなかつたのではないかと思います。ルツはだれかれの見分けがつかないうちに起き上がります。ボアズも、打ち場に彼女が来たことが知られないよう、そして手ぶらで姑のところへ帰ってはならない、とルツの上着に大麦6杯をはかり入れ、彼女に背負わせ、ナオミのところへ送り帰します。それは、ルツがしっかり上着をつかんでいないといけなほどの沢山の大麦でした。それは、このような信頼を寄せてくれたナオミ、願わくば未来の義母への敬意と感謝を表す贈り物でした。

さあ、待ち構えていたナオミにルツはボアズが自分にしてくれたことをすべて報告します。そしてこう言ったのです。「あなたの姑のところへ手ぶらで帰ってはならない、と言って、あの方はこの大麦6杯をくださいました。」1:21、ベツレヘムに戻ったナオミが、「主が私を素手で帰されました」と言った時と同じ「素手で」がここで使われています。ナオミの「素手」の日々は終わったのです！

ルツの報告を聞き、大麦の贈り物を見たナオミは満足します。万事ナオミの願っていた通りでした。ナオミはルツに言います。「娘よ、このことがどう収まるか分かるまで待っていなさい。あの方は、今日このことを決めてしまわなければ落ち着かないでしょうから。」

ルツ記3

あなたはからだを洗って油を塗り、晴れ着をまとって打ち場へ下って行きなさい。ルツ3:3

- ① 私が失って心痛めているものは何かあるだろうか？
- ② 私はそれを主に打ち明け、主の前で悲しみ悼んでいるだろうか。

③ 主が喪に服する期間を終わらせ、からだを洗って油を塗り、晴れ着をまとして新しい歩みをする

ようにあなたに言われていることはあるだろうか？

④ 私はその主の呼びかけにどのように応答したいか？